

【やまざとビジネス支援補助金】 ● 起業や雇用の確保・継続が課題 ●

中山間地域での起業や雇用の確保を目的に平成25年度から3年間で1000万円を上限に長野市が補助金を出す制度で、先日信州新町で補助金を受けている3つの事業の方々と懇談しました。「ここでなければできないもの」にこだわって生産販売している方、「この地域を愛して住んでい

る人たちの力を活かして」地域ブランド確立を目指して生産販売している方など皆さんしっかりとしたビジョンを持ち頑張っておられる様子をうかがうことができました。これをいかに継続していくかが課題であり、私たちが支援しなければならぬところだとも感じました。

【浅川地区で地域の名所めぐり】 ● 他地域でも関心を深め愛着を

浅川地区では地元の方々にガイドになっていただき地域をめぐり初めの名所めぐりが8月に開催されました。縄文時代の勾玉や矢じりなど初めて見せていただくものや聞くことばかりで住んでいても知らないことが沢山あり、もっと多くの方々に知って頂かなければ「もったい

ない!」と強く感じました。これは浅川に限らず他の多くの地域でも同じではないでしょうか。もっと地域に関心を持ち、素晴らしいものがあることを知ることによって今まで以上に地域に愛着を持つ人が増え、その先には人口減少に歯止めをかける何かに繋がるのではと感じたところです。



親ヶ峯遺跡の勾玉、矢じり

【HUG講習会で体験する】 ● より質の高い避難所運営 ●

避難所(H)運営(U)ゲーム(G)を体験されたことはありますか?自分が実際に避難所を運営するという設定でグループ毎に話し合いをしながら避難されてこられた方々を避難所のどのスペースで生活をして頂くかを瞬時に判断するゲームです。避難されてこられる方々はいろんな問題

をかかえておられ、判断基準をしっかりと自分の中で作っておかなければ大変難しいゲームです。これが現実だったらどうなのだろうと常に考えさせられるとともに、普段からの備えの大切さを改めて感じさせられました。体験されたい方は、県庁の出前講座でお申し込みください。

【第4回寺沢さゆり杯マレットゴルフ大会】

台風19号の影響が心配されましたが、素晴らしい好天に恵まれ多くの皆さんと共に楽しくマレットゴルフを楽しみました。賞品にはリンゴ、セロリ、キノコなどなどをご提供いただき、「今晚のお

かずができたわ!」と喜んでいただくことができました。また、成績集計の合間に9月議会の内容を中心に市政報告をさせていただきました。次回も多くのみなさまのご参加をお待ちしております。



【芋井農村体験発表会】



長野市の中山間地を中心に中学生、高校生が農業体験をしながら農家に宿泊する農家民泊事業を行っています。先日芋井地区で農村体験をした芝浦工業大学付属中学2年生の発表会に参加させていただきました。子ども

たちが充実した体験をしたことがよくわかる発表会でした。学園祭に合わせて行われたのですが、芋井地区の皆さんと体験された生徒さんとの再会も感動的なものでした。これからも長く続いて欲しいと強く感じました。

いきいき通信

第28号(2014年10月発行)
発行: 寺沢さゆり後援会
〒381-0057 長野市浅川西条406-38
TEL / FAX 026-295-0585
HP: http://www.terasawa-sayuri.net/
E-mail: iki-iki@mbr.nifty.com

～人と人のつながりを大切にします～
寺沢さゆり 後援会会報

いきいき通信 第28号の内容

- ・寺沢さゆりから皆様へ
- ・あいさつ運動展・開・中
- ・9月定例議会から
- ・やまざとビジネス支援補助金
- ・浅川地区で地域の名所めぐり
- ・HUG講習会を体験
- ・第4回寺沢さゆり杯マレットゴルフ大会



寺沢さゆりから皆様へ

稲穂も重そうにこうべを垂れ、果物も美味しそうに実っています。収穫まで天候が安定することを願うばかりです。

夏から秋にかけて、全国的に大きな災害が発生しました。県内でも土石流による大災害や御嶽山噴火により多くの方が犠牲となられました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。災害はいつ起きるか分かりません。日頃からの備えと避難場所等の確認をぜひおこなっていただきたいと思ひます。

さて、議会では委員会構成が変わり新しい体制がスタートしました。総務委員会では、新第一庁舎・市芸術館工事の遅れや路線バスの廃止問題など、さまざまな課題がある中で多くの事を学ばせていただき、なんとか総務委員長の重責を全うすることがで

きました。これもひとえに皆様のご支援の賜と感謝いたしております。

次に所属する委員会は福祉環境委員会です。児童福祉、高齢者福祉ともに大きな制度改正があり、それに伴って長野市の計画を作る大事な年です。皆様からご意見をいただき大いに議論し、よい計画ができるようにしっかりと取り組んで参ります。

また、特別委員会では公共施設のあり方調査特別委員会に所属することとなりました。長野市もオリンピック施設を始めとして、多くの公共施設をもっています。このまま全てを維持管理することはできません。そのために公共施設の今後の在り方を考え維持管理していかなければなりません。まだまだ多くの課題がありますが、しっかりと仕事をしてまいりますので今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

お知らせ

市政報告会を下記日程で開催予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

- 11月15日(土) 午後2時～
会費: 1000円 お茶・ケーキ付
場所: 長野第一ホテル
- 12月13日(土) 午後6時～
会費: 4000円 市政報告会&忘年会
場所: 万大(上松)
- 1月25日(日) 午後5時～
会費: 5000円 市政報告会&新年会
場所: 油や(駅前)

あいさつ運動展・開・中

今年度から長野県が主体となり、小学校などで「信州あいさつ運動」を展開しています。参加すると元気にあいさつをしてくれる子が多く、嬉しく感じます。時にはアルクマくんやライボくんも登場し、子どもたちの笑顔があふれます。10月24日(金)には浅川地区の「愛の声かけ運動」の一環としてアルクマくんが浅川小学校へ朝のあいさつに登場する予定です。7時30分くらいからの予定です。お時間がありましたらぜひご参加ください。



9月定例議会から



9月4日から24日まで開かれた9月議会では、歳入・歳出にそれぞれ約13億円を追加する補正予算を可決、総額は1733億6千万円となりました。主な内容は市第一庁舎・市民会館建設事業のインフレスライドや

労務不足等による工期延長、特定天井の耐震化対策に約6億円、水痘ワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチンの定期接種化に約2億円などでした。私も今回は以下の8つの項目について質問を行いました。

寺沢さゆり 9月議会質問要旨

④障害を理由とする差別の解消について

- ア、長野市における差別について
- イ、バリアフリー新法（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の推進に関する法律）について

⑤子どもが危険から自分の身を守ることに

- ア、自己肯定感、他者信頼感を育む教育
- イ、自分の身は自分で守る

⑥市立長野高校での中高一貫教育の導入について

- ア、長野市立小学校、中学校の現状
- イ、長野市の教育の質を上げるためには

⑦マイマイ蛾駆除に対する支援

⑧その他



①「ウェルカム長野 2015」について

- ア、長野の魅力
- イ、様々な取組への思い
- ウ、次につながる取組み

②飯綱高原の活性化について

③移住者支援について

- ア、人口減少社会への対応
- イ、永く住み続ける支援

ウェルカム長野2015実行委員会について

長野市はどんなものを魅力と捉え、どのように外に発信してきているのか。私は金沢がきらびやかな城下町の文化でいわゆる動の魅力だとすると、長野は善光寺や戸隠、鬼無里などの祈りや癒しというところでの静の魅力だと感じている。新幹線金沢延伸や善光寺の御開帳に対して実行委員会を作り盛り上げようとしているが、どの層をターゲットにどのくらいの経済効果を見込んでい

るのか。という問いに、長野の魅力は寺、神社の門前町や城下町といった多様な文化、伝統を培ってきた地であり、豊かな自然に恵まれた都市。参拝者は、50代以上が6割、全体の2/3が女性という前回と同様と考え経済波及効果は、1,124億円と考えているとの答弁。御開帳後のにぎわいにつながる取組みにして欲しいと強く要望しました。

移住者支援について

長野市には中山間地域とまちなかの両方に移住ができる環境があり、移住のスタイルもたくさん選択肢があると、全国からも注目されている。現実に移住に結び付けるために空き家情報バンク制度や空き家改修支援と相談窓口の創設、そして多くの部局にまたがっている担当を一つの部局とし、相談から移住、定住へとしっかりと対応する部局の創設が必要と考えるが。という問いに、人口減少対策として、移住支援政策は大変意義のあるもの。具体的な対策としては、空き家バンク制度の創設や移住者が空き家を改修する際の補助制度そして移住を希望する方々にワンストップで対

応できる窓口の設置も必要と考える。まずは部局を横断する組織として人口減少対策本部を設置し、部局の創設も合わせて検討していくとの回答。徹底した市場調査と仕組みづくりには専従職員が欠かせないので部局の創設を改めて要望しました。



障害を理由とする差別の解消について

長野市において現在どのような差別があるのか。平成28年4月から、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律が施行される。法律には職員対応要領の作成が努力義務としてあるが、心のバリアフリーのための具体的な施策も含めどこまで整備が進んでいるのか。放課後子どもプランでの障害のある子どもたちの受入れや環境整備は差別に当たっていないか。という問いに、障害種別によりサービスに差があるなど、社会生活や日常生

活の様々な場面における差別的な扱いがあり、現在も解決できていないものが多いと考えている。引き続き障害理解の継続的な啓発などに努めていく。障害者の権利擁護についても取り組んできている。市としても職員対応要領を作成したい。放課後子どもプランでは、職員の増員を行うなど、できる限り受け入れられるよう体制整備に努めている。との回答に対し、利用したい子どもたちが利用できる更なる環境整備を要望しました。

バリアフリー新法(高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律)について

この新法では、建築物や公共交通機関、道路などにもバリアフリー化基準への適合が求められる。新幹線金沢延伸に伴って並行在来線化される北しなの線開業に伴い、北長野駅、三才駅の運営をしなの鉄道が引き継ぎ、長野市に業務委託されるが、公衆トイレ化されるトイレや北長野駅のエレベーターの設置などのバリアフリー化への対応はどうか。との問いに、バリアフリー

を含む障害福祉に関する研修に職員が参加している。研修の場で学んだことを今後の施設整備に生かしていく。また、北長野駅、三才駅のバリアフリー化は、北しなの線開業後に事業の実施主体となるしなの鉄道と協議を進めていく。との回答に対し、取締役である市長が積極的に長野市の課題について改善されるよう努力をして欲しいと要望しました。

子どもが危険から自分の身を守る教育

災害への対応については東日本大震災後も強く言われているが、いじめや虐待など暴力に対しても、自分の身を自分で守るために、まずは自分を大切に思う気持ちを育て、暴力に遭いそうになったときに嫌だと言える勇気、悩みを話せる勇気を育てる教育（子どもへの暴力防止プログラム）が必要だと強く感じている。教育委員会として進め

て欲しいが。との問いに、重要性は大変教育委員会としても認識しているが、費用の面や学校のそれぞれの教育計画の中でどのように実施できるかも研究しながら検討していく。との回答に、お金がないからと手をこまねいている現状ではない。しっかりと取り組むことを強く要望しました。



市立長野高校での中高一貫教育導入について

全ての市立小・中学校で安心して教育が受けられる現状か。今以上に教育の質を上げるためには、中高一貫校を作る前にやるべきことはたくさんあると考えるが。との問いに、本市ではキャリア教育を軸とした学習指導や生徒指導の小中高一貫カリキュラムを開発し、その有効性を市立長野中高

一貫校で実施をする。この成果を市内全ての小・中学校に還元することで長野市教育全体のレベルアップができる。との回答に、小中学校の現場で起きている問題にきちんと目を向けて欲しい。子どもたちがよりよく成長するように教育行政を進めて欲しいと強く要望しました。

こども・子育て支援新制度について

新制度化で一番影響を受けるのが施設型給付を受ける幼稚園や幼保連携型認定こども園。現在ある就園奨励費や私学助成等を移行後も市として担保することは行政の義務と考える。入園申込みが直前に迫っており、利用者負担が増えるのではと現場の混乱が既に起きている。できる限りの配慮が必要と考えるが。との問いに、公費総額はこれ

までどおりに施設運営できる給付が確保でき、また保護者の負担も大きな変更が生じることのないよう努めていく。特に認定こども園においては、移行に当たっての影響が大きいので丁寧に対応していく。との回答に、子どもたちが安心して保育・教育を受けられるよう更なる努力をするように要望しました。